

組織現勢（3月1日現在）

組合員数	20,308人
出資口数	96,254口
2月の新規加入	63人
2月の増資口数	288口

No. 391 再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所

城南保健生活協同組合

本部事務局 大田区大森東4-6-15-101

TEL (3762) 0266

振込銀行 さわやか信用金庫大森支店

口座(普) 0469459

発行 「城南の保健」編集委員会

毎月1回発行・定価1部 30円

さまざまな思いを込めて タスキをつなぐ 全30チーム完走



今年も楽しく走りました

ランナーの皆さん、当日の要員で協力いただいた皆さん、本当にお疲れ様でした。皆さん、来年もまた元気に会いましょう！

3月6日(日)、多摩川ガス橋下で第6回早春駅伝フェスティバルが開催されました。今年はいくつかのチームがエンタリ。1チーム4人で1人2・5キロを走ります。各チーム、さまざまな思いを込めてタスキをつないでいきました。後半、パラパラと雨粒が落ちてきましたが、全チーム見事に完走しました。

3月6日(日)、多摩川ガス橋下で第6回早春駅伝フェスティバルが開催されました。今年はいくつかのチームがエンタリ。1チーム4人で1人2・5キロを走ります。各チーム、さまざまな思いを込めてタスキをつないでいきました。後半、パラパラと雨粒が落ちてきましたが、全チーム見事に完走しました。

戦争させない！戦争に行かせない！

あなたの思いを「2000万人署名」に

「民主主義って何だ」と青年が声を上げ、「だれの子も殺させない」とママ達が声を上げた。2015年、流行語大賞のトップテンに「アベ政治を許さない」「SEALDs」が選ばれました。国民の声を無視して

「戦争する国」へと暴走するアベ政治をストップさせ、「国民の声を届く政治に変えたい」の願いを2000万人署名に託してください。署名を成功させ、国民の声で政治を動かしましょう。



城南3法人の病院、診療所、薬局の受付に署名用紙と署名ポストがあります。皆さまのご協力をお願いします。

城南3法人は、5月3日の憲法 記念日までに2万3000筆の 署名を目標に取り組んでいます



京急蒲田駅前で「戦争法廃止」を訴える

戦争法に
対して
は、国会
審議の段
階で、憲法の専門家をはじめ、さまざまな分野の人びとから反対の声が上がり、世論調査でも8割が政府の説明は不十分と答えていました。全国の人びとの強い反対の声を国会内の数の力で踏みつけた採決は、民主主義を壊す暴挙であり、正当性を欠くものです。

《駅伝タイムは2面》



負けないぞぉ～

安心して生きられる国へ 必要な医療と介護は国の責任で

城南の保健3月号で、「国民健康保険料を払えない」「治療費の心配から受診をがまん」「手遅れ死亡事例」などを紹介しました。今回は、今後ねらわれている改悪案を紹介します。

- 75歳以上の窓口負担が2倍に
- 湿布、漢方薬、うがい薬などの保険給付を除外しすべて自己負担に
- 国の公的医療保険と公的保険外保険（私的保険）の2階建て保険制度
- 疾病に応じた自己負担割合の設定。さらに風邪などの軽症の治療費は高くなる
- ケアプランの有料化などです。さらに、
- ベッドの数が最大で20万床の削減

国は都道府県に医療費削減を押しつけ、患者を追い出そうとしています。高齢者のピークとされる2025年には、最大20

万床の削減が予定されています。ベッドの数が増加する都府県もありますが、病院の機能を再編し、救急受診や専門診療科目など、今まで自分の地域で受けることができた医療が受けられなくなる可能性があります。

- 国保の運営が変わり、国保料の取り立てが強化
- 国保財政運営が市町村から都道府県に移行されることで、高い納付金額や標準保険料率を設定される可能性があります。
- などなど多くの改悪が計画されています。

私たちがすべきことは、日本の平和と民主主義を守るため、そして、誰もが安心して医療や介護を受けられる声をあげましょう。

- 選挙で意志を示しましょう。

今年7月の参議院議員選挙で、戦争法廃止、充実した社会保障を実現できる政府に転換しましょう。

春の健康バスハイクのご案内

「世界遺産 富岡製糸場の旅」

今回の旅は、群馬県。平成26年に世界遺産に登録された富岡製糸場の旅です。歴史ある水澤観音も散策します。

【日にち】 4月24日(日) 雨天決行

【参加費】 大人 7,500円
子ども(小学生以下) 7,000円
子ども(小学生未満) 3,500円
(座席を必要としない方)

【昼食付】 「水澤うどん」です！

詳しくは3月号のチラシか生協本部まで

腹八分

いま政府は「一億総活躍社会」という名のスローガンを掲げて、日本中を覆う閉塞感からの脱出を試みようとしている。

それは戦前苦境に追い込まれた政府と軍部が、国民の怨嗟の声を封じ込めるために用いた「一億火の玉」のスローガンと重なる。戦前のスローガンが、やがて国を破滅に導いたように、新たなスローガンも近い将来訪れる破綻を暗示する。権力がひとつの方向を強制するとき、前途には破滅しかない▼戦前大多数の国民は貧苦に喘いでいた。国の財政は軍事優先。軍需で財閥が潤い、格差社会はいっそう広がるばかりであった。そして、戦後70年を経て戦前が戻ってきた。いま、年金などで収入が15万円ほどの人が1100万人。政府はこの方々に「臨時給付金」として6月までに3万円支給を決定。これを「一億総活躍社会」の一環と称す。7月の参院選の人氣取りは明らかだ。▼老人切り捨て社会、若者をブラック企業に追い込む社会、子育てママから仕事を奪う保育待機社会。格差社会は、さらに広がる。悪政の波にもまれる中で新たな流れが生まれた。それぞれが自分の範囲で、自分の言葉で声をあげはじめたのだ。それは急速に勢力を強めつつある。子育てママも、若者も、学者も、老人も、かたまりになって国民へ押し寄せる。その底には平和を守れ！憲法壊すな！の願いが共通している。かつて経験したことのない、一億総活躍社会に変わる「国民総がかり運動」がはじまろうとしている。